

UDL ガイドライン 3.0 の理解促進と実際のサポート

講師：バーンズ亀山静子氏（ニューヨーク州認定スクールサイコロジスト）

日時：1月18日（日）9:00～12:00

形式：Zoom によるオンライン研修

第4回の研修会は、バーンズ亀山静子先生を講師にお迎えして、2024年にリリースされた新しい『UDL (学びのユニバーサルデザイン)ガイドライン 3.0』に基づいた、子どもたちに寄り添う授業づくりについて多様なワークを通して学んでいきました。

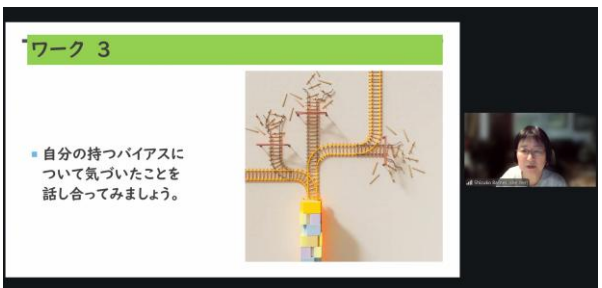
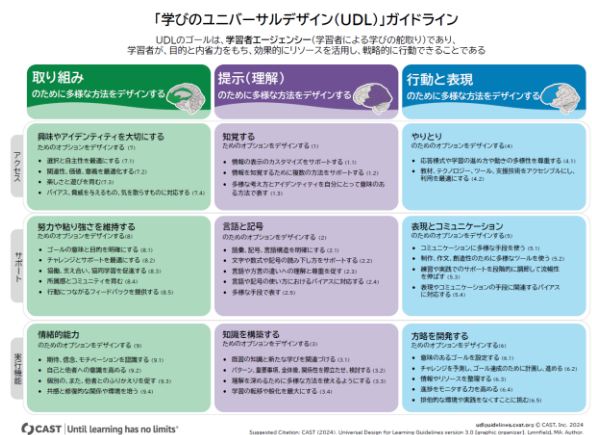
○ガイドライン 2.2 から 3.0 へ

『UDL ガイドライン 3.0』では、最終ゴールがこれまでの「学びのエキスパート」になるから「学習者エージェンシー」を身に付けることへと発展しました。学習者エージェンシーとは、「学習者が自らの学習に対するオーナーシップを持ち、積極的に参加できるように環境を整える」能力のことで、日本の次期学習指導要領においても意識されています。

また、これまでは教師がどのように学習環境を整える・提供するかというガイドラインだったのが、学習者自身が使うことも想定した書き方になりました。年齢、性別、母語、好み、障害や特性などの学習者のアイデンティティーが尊重されることや、教師や学習者自身が持つバイアスが学習に影響を及ぼしていることを意識することが明記されているのも新しいガイドラインの特徴です。

そこで、校種ごとのグループに分かれ、学習者としてのアイデンティティーが学習にどのように影響を及ぼすか、自分が持つバイアスに気づいた経験などを出し合い、なぜ今回のようなガイドラインの変更が必要だったのか、この変更はわたしたちをどのように変えるのか、『UDL ガイドライン 3.0』の背景と未来について理解を深めていきました。

※日本語版『UDL ガイドライン 3.0』と解説は右の二次元バーコードからダウンロードできます。



一覧表



ガイドライン3.0の解説

○マインドセットの転換

後半は、UDL を授業で展開していく際のマインドセットの転換が話題となりました。UDL の基本的である「障害は、子どもにあるのではなく、その子どもの参加を阻んでいる授業の方に存在する」という考えに加え、新しいガイドラインでは「どう教えるか」から「どう学びを伴走するか」へと教師のマインドセットがより求められます。

ワークでは、“子どもを変える”のではなく“環境を変える”という発想のもと、授業の中にあるバリアを取り除き、オプションや足場の支援を提供することで多様な学びを促進していくために国語「ごんぎつね」の授業を例に想定されるバリアとその対応を想定していきました。

さらに、実践を継続していくためには、ゴール、オプション、足場的支援、ふりかえり、評価、フィードバックなどをポイントに自分の授業デザインを定期的に検証したり、専門的な学習コミュニティ PLC(Professional Learning Community)を編成したりするなど、学びをデザインする専門家になっていくことが大切です。

オンラインではありますが実際に UDL の要素をちりばめた研修によって、新しいガイドラインのバックグラウンドのレクチャー、実践的なワークとディスカッションと、参加した先生方の学習者エージェンシーが高まる充実した時間となりました。

○参加者から（一部抜粋）

- ・教える側の固定観念・バイアスについては考えさせられる内容でした。また、UDL の眼鏡を通してみる、という手順は、取り入れていきたいと思いました。
- ・ワークでの意見交換や書き込みにおいて、自分の中にはない発想、考え方が多々ありました。その中には UDL に対する捉え方の違いもありました。少しずつ自身の中に凝り固まっていた UDL 感（バイアス）があったことを自覚しました。ガイドラインを読み込み理解することも大事ですが、色々な方と意見交換することの必要性も実感いたしました。

問題解決の系口は

「**どう教えるか**」から
「**どう学びを伴走するか**」の

マインドセットの転換

UDL レンズを通して
見てみよう



子どもではなくて、授業の方から考える！

めざすのは、

学習者エージェンシーが高まること

次回は、「多様な支援が必要な生徒への進路指導での関わり方」

日時：3月15日（日） 9:00～12:00

場所：早稲田大学 中野国際コミュニティプラザ（対面）とオンラインのハイフレックス研修

講師：加藤 正和 氏（東京都立高校 生徒相談室 専任相談担当教員）

内容：生徒の進路の多様化の現状をお伝えし、どのような相談や支援をどの時期から始めるとよいか、生徒のキャリア意識をどのように育成していくとよいか等について考えて参ります。